

現在の景気：県内景気は、緩やかな持ち直し傾向が続いている。非製造業では、観光や飲食などの対面型サービス業の回復が続いているほか、自動車や百貨店の販売も底堅く推移している。製造業では、海外需要の鈍さなどから生産活動の足踏みが続いている。この間、建設需要は、建設コスト上昇等から住宅着工に弱さがみられるが、交通インフラ整備や物流施設などの官民プロジェクトの進展などを背景に総じて底堅く推移している。

3か月程度の見通し：非製造業は、物価高や人手不足の影響を受けつつも、対面型サービス業を中心に持ち直しの動きが続くとみられる。製造業では、海外需要の鈍さの影響が続くとみられる。

個人消費：①上向き。②12月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比1.2%増と2か月連続で前年を上回った（19年同月比では7.2%減）。クリスマスケーキやおせちなど季節商材の販売が好調だったほか、年末も正月準備や手土産を求める顧客で賑わった。1月入り後は、食料品のほか福袋販売も堅調で、寒波到来により冬物重衣料なども伸びている模様。12月の自動車登録台数は、同12.6%増と16か月連続で前年を上回った（19年比では8.7%増）。軽自動車（前年同月比0.0%増）は前年並みだったものの、一般乗用車（同19.1%増）が増加した。

住宅建築：①一進一退。②12月の新設住宅着工戸数は前年同月比0.3%増加し、7か月ぶりに前年を上回った。持家（同15.9%減）、分譲（同1.9%減）は減少したが、貸家（同15.0%増）が増加した。

設備投資：①堅調。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、12月の工事床面積（年度初来累計）は前年並みで、工事予定額は同9.0%増加した。ひまわりベンチャー育成基金（調査研究部門：千葉経済センター）による県内企業198社アンケート調査（12～1月実施）では、23年度の設備投資計画額（全産業、12月末時点）は、22年度実績額の2.4倍で、期初計画比でも0.8%増の増額修正となった。

公共工事：①増加基調。②12月の県内公共工事請負額（年度初来累計）は、前年同月比0.1%増加した。独立行政法人等（前年同月比17.7%減）、国（同12.5%減）、市町村（同4.7%減）は減少したが、県（同10.3%増）が増加した。

輸出：①減少基調。②12月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比9.6%増と2か月連続で増加した。成田空港は、内燃機関（同52.5%増）や医薬品（同46.7%増）などが増加し、同8.3%増と10か月ぶりに前年を上回った。千葉港は、鉄鋼（同187.9%増）や金属鉱・くず（同91.1%増）などの増加により、同34.6%増と4か月連続で前年を上回った。木更津港は、有機化合物（同668.4%増）や自動車（同4.6%増）などが増加し、同0.5%増と11か月連続で増加した。

生産活動：①一進一退。②11月の県鉱工業生産指数（季調済）は、89.0（前月比0.3%低下）と2か月ぶりに低下した。食料品工業（同3.2%上昇）などは上昇したものの、石油・石炭製品工業（同15.7%低下）、鉄鋼業（同0.3%低下）などが低下した。

観光：①拡大。②県内の観光・宿泊施設では、好調な入込が続いている。コロナ5類移行後初めて迎えた年末年始は、帰省や旅行などで人の移動が活発化し、犬吠埼海岸には初日の出を見に約6万人（19年比+2千人）が集まったほか、成田山新勝寺には三が日に約300万人（コロナ前並み）の初詣客が訪れた。

雇用情勢：①足踏み。②12月の有効求人倍率（季調値）は、前月と同水準の0.96倍となった。有効求職者数（前月比0.5%増）、有効求人者数（同1.3%増）ともに増加した。

【トピックス】

- 「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」が施行された（1月1日）。千葉県はこれまで、全国で唯一、男女共同参画に関する条例がない都道府県であったが、今回の条例で基本理念として初めて盛り込まれた。
- 千葉市は、中小事業者の脱炭素化を支援すべく、CO2排出量の分析・算定や、省エネ・再エネ設備の導入などに関する専門家を派遣する「千葉市脱炭素アドバイザー派遣事業」を県内で初めて開始した（1月9日）。
- 成田空港における国内線の累計旅客数が1億人に到達した（1月10日）。また、23年中の成田空港の航空旅客数は、約3,270.6万人（前年比2.1倍、19年比26%減）と4年ぶりに3,000万人を回復した（1月25日）。国際線は前年比2.8倍、19年比では32%減にとどまった一方、国内線は前年比1.2倍、19年比でも0.2%増に増加し、過去最多を記録した。